

## 飛鳥の歴史と遺跡

52期生

### I テーマ設定の理由

第一に明日香村は家から近くてそのうえお金がかからない+歴史文化教育という重大な2ポイントのため遠足のメッカ!!人生通算30回以上は飛鳥の旅路をふらついて来た。そのうえ飛鳥時代はとにかく不明確な点多すぎ、又、その不思議さを知りたかった。文化財の保護や観光地としての明日香を私の独断と偏見で知っておきたかったからである。

### II 研究方法

- (1) 文献調査→図書館で飛鳥時代の中心的人物である聖徳太子と蘇我氏に関する本から資料となるものを調べる。インターネットで明日香村に関連性のあるものはプリントアウトして調べる。
- (2) 現地調査→聖徳太子を中心とした寺や神社を訪れる。橘寺、石上神宮、飛鳥寺、入鹿の首塚、石舞台古墳、山田宮跡、法隆寺…etc  
アンケート調査を行う。飛鳥資料館に行き資料をいただく。

### III 研究内容

#### 1. アスカという地名の由来について

根本的に何に由来しているのか解決していない。しかし、様々な説がある。

- ・第一説…倭国へ渡来した人々が安住しえた所だから、安宿（朝鮮音でアンスク）が縮まってアスカとなった。
- ・第二説…アスカ地名は、地形を示す「スカ」という語接頭語の「ア」がついたものとする。

前者の方が異国交流が背景に見えるのだが、後者の方も興味深い。奈良で「スガ」という地名は「マスガ」「カスガ」などがある。スカやソガは川べりの砂洲を意味する。飛鳥には飛鳥川という大きな川があり湿地であるという印象が強い。又、万葉集にも関連する歌がある。

・大君は神にし坐せば赤駒の匍匐ふ田井を都となしつ

・大君は神にし坐せば水鳥の多集く水沼を都となしつ

この二首は、壬申の乱の後に作られた歌と伝えられ湿地の多い飛鳥から藤原京城にかけての景観を歌っている。このように歌に読まれたのですから飛鳥川の川沿いには菅の繁る湿地が広がっていたと思われる。アスカの地名に対して記録では「飛鳥」とのみ表記し、「万葉集」では「飛鳥」と「明日香」をともに用いている。「明日香」の表記は「アス」に翌日の意の「明日」、場所を意味する「カ」に万葉仮名の「香」を宛てたもので、理解しやすい。

それに対して「飛鳥」というのは枕詞、「飛ぶ鳥の」に由来するとの考え方は単純だが有力である。アスカはカスガやマスガと同様に、「接頭語+スガ、スカ」の語構成になっ

ていて共通している。このようにそれぞれの説があるが、一番有力視されているのが第二説である。

## 2. 聖徳太子に関連性のある神社や寺

### a. 橋寺



橋寺の創建は明らかではないが、その伽藍配置から蘇我系の尼寺と思われる。この寺は一度出火しているが、原因として当時寺など、九州における弾圧が伝えられる中、近畿の地では蘇我系の寺院を中心に一致して反対運動に取り組んでいたためその中心が法興寺(飛鳥寺)であり、尼寺としては「橋寺」だったのであろう。聖徳太子出世の謎

聖徳太子が生まれた直後から聖者とあつかわれ、死んでもなお高貴な人物として有名だ。生まれたときの伝承といえば下のようなものがある。

- \* 伝承一…聖徳太子の母は宮中の馬屋の戸に当たって苦もなく出産した。
- \* 伝承二…生誕間もない聖徳太子が言葉を発し“聖の智”があった。
- \* 伝承三…同時に十人の訴えを聞いた。

\*一について、これはすでに八世紀にはすでに日本に伝わっていたとされるキリスト生誕伝説のパクリであるとされている。キリストなどの例事がないかぎり戸にあたるというようなはずかしい事を言いつたえにするがないであろう。\*二についてだがこれもシッダルト誕生時のパクリに似ている。生物学的に認めることはまずないだろう。\*三についてもこれは日本書記に記録したものであるためまず信じるべきではないだろう。

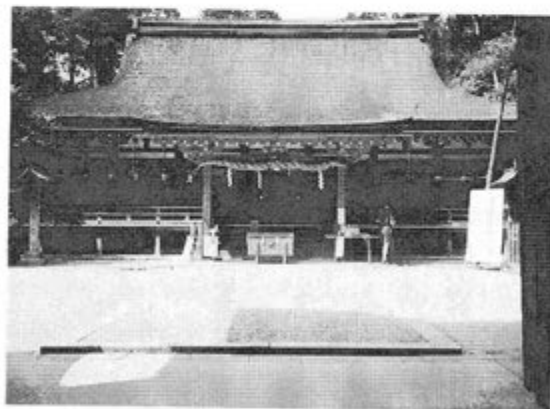
### b. 石上神宮と飛鳥寺

物部氏 vs 蘇我氏における日本書記の記述によると物部氏は蘇我氏にだまし討ちにされ、領土を奪われたのである。しかし、ここでの物部氏の言い分と蘇我氏の言い分が気にかかる。

蘇我氏→物部氏の仏教推進派に対する迫害は確かにあったが、しかし、両者の豪族の決定的な対決はなく最終的に和解した。

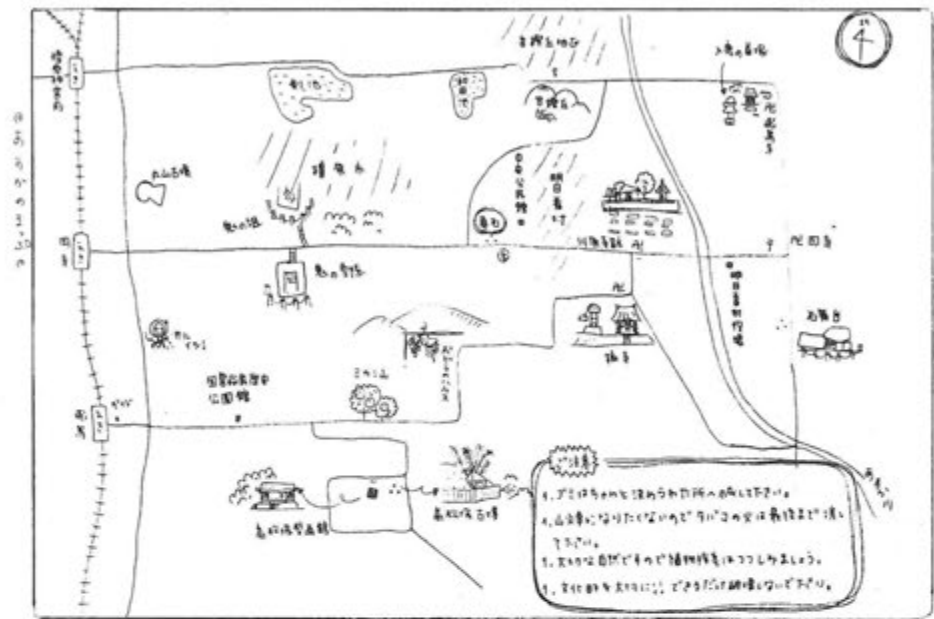
物部氏→宗教戦争に触れていないばかりか物部守屋と蘇我馬子が対立したことも明らかではない。

このようにこの宗教戦争は実に不明確であることが分かる。又、この戦争が終わって物部守屋を討った一ヶ月後にあたる用明2年(587)8月崇峻天皇となった泊瀬部皇子は、仏教興隆策が打ち出された。崇峻2年(588)に百濟王が僧、寺工などを日本に



送ってきた。又、仏舎利と寺の本堂の模型とを持ってきた。そのため、馬子がかつて彼が聖徳太子とともに選んだ地に、法興寺を建設しはじめたのである。

## 3. 飛鳥の観光ポイント



### ★飛鳥での交通機関★

あべの橋→飛鳥≒45分

京都→→→飛鳥≒65分

名古屋→→→飛鳥≒140分

■ 橿原神宮前→甘樫丘≒10分

橿原神宮前→橋寺≒15分

時刻のお問い合わせ

☎ 0742-20-3100

### ☆飛鳥コース☆

[飛鳥駅…高松塚古墳…橋寺…川原寺…石舞台…飛鳥寺…亀石…鬼の俎…鬼の雪隠…甘樫丘…飛鳥駅]

※コノナカラ選んで下さい。

◆気になる入場料◆

奈良国立文化財研究所…60円 橋寺…250円 ※学生料金

飛鳥寺…150円 飛鳥民族資料館…100円 飛鳥駅

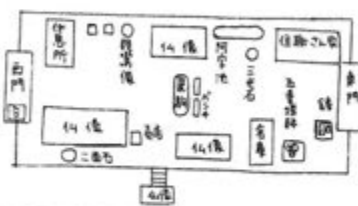
川原寺…150円 石舞台古墳…150円 高松塚古墳…70円

◎高松塚古墳◎	ポイント
1972年極彩色の貴人、麗女たちが公開されるようになった。発掘当時の忠実な模写がある。	感激度*****
又、今年は辰年ですし、「青龍」復元図を見に行くというのもエンギが良いのでGood	歴史度*****
開館=9時~16時30分	発見度*****
休館=毎週月曜日(※4、5月と10、11月は無休)	お得度*****
12月28日~1月3日と2月1日~末日	満足度*****
	後悔度**
	0% 50% 100%
*この高松塚古墳はとても中がキレイで、保存状態がとてもいいところで観光客が多く訪れる遺跡の一つです。	
たまたまそこで取材しているNHKの人などにインタビューされることもしばしばあります。	



◎橋寺◎


この寺は見はらしが良くひっそりしている。土産コーナーのお坊さんはとても良いかたでバイクで買い物に行ってしまうぐらいのどかです。石灯笼・五重塔の心礎が美しく、不思議な二面石もある。10人以上で予約すれば手づくりの精進料理が味わえます。



橋寺の正面に川原寺があります。この寺はお昼に行くと住職さんは、寺の昔あった川原寺のお話を聞いてねいに聞かせてくださいます。私が行った中では一番ガンコな寺ですので言葉ズカイに気がつけた方が身のためです。

ポイント	
感激度	*****
歴史度	****
発見度	****
お得度	**
満足度	*****
後悔度	****
	0% 50% 100%

◎石舞台古墳◎



石舞台は小高い坂の上にあるので車でも行けるが自転車が最適です。2300tの巨石4つからなる迫力があります。

坂には休憩所があり、人が集まっています。そこの売店のお土産コーナーでは、「富本銭」を実物とほぼ変わらない復元物が売ってあります。

周りには広場が連なっていて、芝なので遊べます。それに、時々その広場には気球をとばしたりするのも見ることがあります。

道端に置かれている農家の人が作ったミカンが売られたりしています。ここは休息するのにいいです。

ポイント	
感激度	*****
歴史度	****
発見度	***
お得度	*****
満足度	*****
後悔度	**
	0% 50% 100%

◎飛鳥寺◎～入鹿の首塚～



\*写真は一番ポイントの高い気になる仏像ですので見つけて下さい。日本初と言われる飛鳥大佛があり、中に入ると大佛の顔や伝わり方などを住職さんが言い慣れた口調で説明してくれます。

ポイント	
感激度	*****
歴史度	*****
発見度	*****
お得度	**
満足度	*****
後悔度	**
	0% 50% 100%

◎亀石◎

長さ4m、幅2m、高さ2mの巨岩。彫刻の表情からこの名がついたのかも知れない。行ってみれば分かるのだが、田畑の中に岩があるという感じで、さわろうが座ろうが何でもあり。岩石をたたきすぎないのがポイントでたたずんでる岩がとても風流。いわれの説明がすみにあります。

ポイント	
感激度	****
歴史度	**
発見度	*
お得度	*****
満足度	**
後悔度	*****
	0% 50% 100%

◎鬼の俎・鬼の雪隠◎

言いつたえによれば本当に鬼がいたらしい。しかし、聖徳太子や物部氏が鬼であったとの記紀からも分かるように飛鳥と鬼と何か関係があるのだろうか？この2つの岩も、さわったりしてもいいです。訪れるというより道端なのでヨリミチして下さい。

ポイント	
感激	***
歴史	*
発見	**
お得	*****
満足	**
後悔	*****
	0% 50% 100%

◎甘檜丘◎

この丘を反対方向から登るとまず迷いこむのに当たり前。必ず誰かはいるので聞きまくるのが良い。甘檜丘の頂上では飛鳥全体を見わたせて、大和三山がとても美しいです。又、そこはちょっとした広場があるので景色を見て休むのにちょうどOK

ポイント	
感激度	*****
歴史度	*****
発見度	*****
お得度	*****
満足度	*****
後悔度	*
	0% 50% 100%

★観光地化する飛鳥の新しい問題点★

明日香は急に観光地化されたと思われる。数年前までは道もガタガタで草が密生している所などがきれいなコンクリートや芝もきっちりと刈りとられていた。

寺そのものは昔からの風土が感じられるのだが一步外に出ると、周りは人口的で設備が堅くなった気がする。あまりにも内と外だけのギャップが激しいのである。又、このコンクリートにしたのは、観光地となりバスなどが入りやすくするためであり、飛鳥に住む住民の生活向上のためだろう。

そして、飛鳥の景観などを守るために条例としたのも、寺などを守る住民の意志である。

文化財を保存していくのはとても難しい。観光客である私達にも協力すべきことは沢山残されているであろう。

★アンケート結果★

アンケート結果から分かったことは観光客の目的である。①は0回は流石にいなかったが1回～5回が大半だった。②～⑥はアンケートの意味はあまりない。教科書ではたった2ページしか書かれていないのに答えられた人はなし。

- ①明日香に行ったことは何回ありますか？
- ②飛鳥時代の中で一番印象の良い豪族？
- ③飛鳥時代の中で一番印象の悪い豪族？
- ④一番興味のある古墳や寺はどこ？
- ⑤飛鳥時代の中で興味のある人物？
- ⑥又、どんな所に？
- ⑦飛鳥時代と現代の政治はどちらが好き？
- ⑧又、どちらが倫理的？
- ⑨学校教科書の中で教えてもらったことで疑ったことがあれば書いて下さい。

観光目的として考えると、飛鳥の遺跡を見に来るのは有名だからである。だから知らないのは当然なのかも知れない。⑨については、小中学校の教育制度の問題であるから、知識が入っても仕方なかったと思う。

#### IV 結論

飛鳥の寺や遺跡を調べに行く前に様々な伝承や日本書紀やそれ以外から分かる時代背景を見ていったが、色々な疑問点があった。それについて一番有力と言われているのが藤原氏系の豪族が日本書紀を書き直したらしいのである。飛鳥時代の資料となるのは、日本書紀等しか具体的にないのでいくら当時のことが書かれていたとしても、書き換えたり、間違えたりしたら全く歴史が変化してしまいます。

一つのできごとに対していくつもの説があるため発見がないと分からないのが事実です。アンケート調査を行ってみて、飛鳥に観光に来る人は、家族でのサイクリングや日本古来の文化を見に来てるので、物部氏や阿蘇氏などどうでも良い。実際飛鳥時代など忘れたと言われたのがほとんどだった。卑弥呼と答えて下さった方もいました。

飛鳥は、あべの橋駅からも紹介の看板などがあり観光地代に力を注いでいる。

#### V 総括

飛鳥では文化財の保存が課題に上げられている。

保存には金の問題や政府の問題があるので大変だと思う。一番苦勞しているのは、住民の方なので観光するにあたって、そのところの理解が大切になってくるだろう。

#### VI 参考文献

- |                   |           |
|-------------------|-----------|
| ・『逆説の日本史2』        | 井沢元彦著     |
| ・『鬼の王権聖徳太子の謎』     | 関 裕一著     |
| ・『日本書紀は何を隠してきたか?』 | 遠山美都男著    |
| ・『蘇我王国論』          | 山崎仁礼男著    |
| ・『聖徳太子と鉄の王朝』      | 上垣外憲一、他著  |
| ・『古事記と日本書紀の謎』     | 上垣外憲一、他著  |
| ・『二人の聖徳太子』        | 関口昌春著     |
| ・『飛鳥学総論』          | 樞原考古学研究所著 |
| ・『古代の苑池』          | 樞原考古学研究所著 |
| ・『日本の歴史 争点2』      | 白石・吉村著    |
| ・『日本書紀を批判する』      | 古田・澁谷著    |
| ・『木簡』             | 大庭 修著     |